

あるレメディ RX の古典的ケース

○ヘンリーH, 7 歳、赤ん坊のころから発疹がある。1905 年 3 月 23 日、青白く病的な感じでやってきた。手足と体の表面全体は乾いて鱗状であった。かゆい。ベッドで温まると悪化; 冬に悪化; 皮膚は汚く、油っぽく見える。体のかび臭い匂い。

Psor. Cm: 4 月、Psor. Cm; 8 月、Psor. Dm. 青年となったこの子は 1913 年 5 月にやってきて、たくましく健康的になっていた。発疹のぶり返しはなかった。

○骨にまで影響する膿瘍を伴う、耳のうしろ、頭皮、ひじの曲がったところと腋の下の湿疹のケース

何をしていてもだめだった。湿疹は消えたがまた数年して手首に現れた。両方の手首に 50 セント玉大の斑ができていた。

非常にかゆくて眠れず、常に掻きたい欲求にかられる。

Psorinum mm(Swan).

2 日間で斑は 2 倍に大きくなり、その後 1 週間で中手骨の間、手の甲にまで広がったがもう 2 週間たって、それらはきれいになくなった。

○未婚の女性が次の症状に悩まされてやってきた: 鬱;

無関心; 働きたくない; 一点をみつめて何時間もすわったままにいる; ひどく悲しんで泣く; ほんとうに仲の良い友達でさえそばにいてほしくない; 治らないと絶望的; 自殺を考える; 死ぬことだけを考える; ふるえ; いらいらしやすく、忘れっぽい; 夜は朝まで眠れない; 一日中眠っていたい。Psorinum 6th を頻繁に繰り返し飲み、完全に治癒した。